

## 第5章 主な検討結果及び今後の課題

今回のメッシュ別将来人口推計の作業では、従来の1kmメッシュ単位よりも詳細な500mメッシュ単位を基本としたメッシュ別将来人口を推計した。そして、これらの推計データ等を用いて、将来にわたる人口減少や高齢化の地域分布とその影響等について分析を行った。

その主な分析結果としては、以下のような点が挙げられる。

(1) 500mメッシュ別での将来人口推計データは、地図上で視覚的に、各地域における将来的な人口の変化が1kmメッシュデータよりも詳細に把握でき、地域づくりや地方創生の取組を戦略的に推進するための基礎資料に資するものであり、いわば地域の将来に向けた取組のための見取図となるものである。また、地域の施設・インフラの利用可能性（アクセシビリティ等）など様々な分析を1kmメッシュ別に行うよりもさらに精緻に行うことが可能となり、住民生活の維持・安定を図るための政策判断上の重要な材料となる。

(2) 500mメッシュ単位を基本としたメッシュ別将来推計人口（1kmメッシュベース<sup>1</sup>）の推移をみると、人口が50%以上減少（半減）するメッシュは無居住化するメッシュを含めると2020年には5%に過ぎないものの、2050年には約6割に達しており、人口減少が加速していくと予測される。

また、高齢化の進行について、75歳以上人口の推移をみると、2010年から2025年、2025年から2050年と年月を経るにつれ、減少するメッシュが全国的に広がる中、1,000人以上増加するメッシュは全国の1%前後で、その大部分が東京圏に集中している。

(3) 大都市圏の高齢化に関する分析として将来の高齢者人口とニュータウン・高層マンションの立地との関係や高齢化と関係する状況等の将来の姿を検証した。

① 将来人口推計から、大都市圏の高齢化に関する分析を行ったところ、75歳以上人口の増加が集積している範囲について、その周辺にはニュータウンや高層マンションが立地していることがわかった。期間で区切ってみると、2025年までは、郊外部をはじめとするニュータウンの周辺が75歳以上人口の増加が著しく、2025年～2050年ではニュータウンよりもむしろ都心部等の高層マンションの周辺について増加が著しいことが把握された。

<sup>1</sup> 1kmメッシュ内にある500mメッシュの推計人口を足し上げ算出した1kmメッシュ将来人口の推計値（第2章参照）。

② 将来の医療技術の進歩等を考慮しない一定の前提の下では、高齢者人口が1,000人以上増加するメッシュが集積している東京圏の地域では、東京圏全体に比べて、1メッシュ（1kmメッシュ）当たりの高齢者人口が多く、がん患者が増える可能性や介護需要が高まる可能性があるという結果となった。

（4）新幹線新駅等を対象にインフラ整備による人口増加の効果を分析したところ、必ずしも全ての駅で人口増加がみられたわけではないが、従来の在来線の中心駅・中心市街地から離れた地域に立地した新駅等においても、例えば、新下関駅など、新駅整備と契機として都市開発等を行っているところでは人口増加している駅もみられた。

今回の分析により、メッシュ別将来人口推計、特に500mメッシュ単位での推計の活用の可能性が確認できるところであるが、今後とも、さらに推計モデルの精緻化や推計方法の改良等絶えざる改善の努力を続けることに加え、2015年国勢調査のメッシュ統計結果等を反映するなど、引き続き推計精度の向上を図る。また、メッシュ別人口データを活用した様々な分析に取り組んでいく考えである。